

製品名: オプティニューリンウサギモノクローナル抗体**カタログ番号: AMRe21574**

研究使用のみ

概要

説明	組換えウサギモノクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA,IP
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG,Kappa
クローン性	モノクローナル
形態	液体
濃度	0.3mg/ml。本製品の濃度はロットによって異なる場合があります。
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	PBS、50%グリセロール、0.05%プロクリン 300、0.05%保護タンパク質
精製	プロテイン A

応用

希釈倍率	WB 1:1000-1:5000,IHC 1:200-1:500,ICC/IF 1:200-1:1000,ELISA 1:5000-1:20000,IP 1:50-1:200
分子量	Calculated MW:63kD;Observed MW:74kD

抗原情報

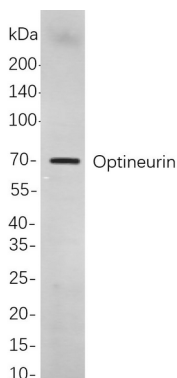
遺伝子名	OPTN
別名	Optineurin;E3-14.7K-interacting protein;FIP-2;Huntingtin yeast partner L;Huntingtin-interacting protein 7;HIP-7;Huntingtin-interacting protein L;NEMO-related protein;Optic neuropathy-inducing protein;Transcription factor IIIA-interacting protein;TFIIIA-IntP;
遺伝子 ID	10133.0
SwissProt ID	Q96CV9
免疫原	ヒトオプティニューリンの組み換えタンパク質

背景

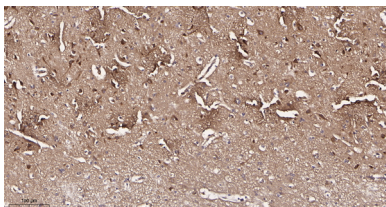
細胞局在：細胞質。この遺伝子は、コイルドコイル構造を有するタンパク質オプチニューリンをコードする。オプチニューリンは、正常眼圧緑内障および成人発症型原発開放隅角緑内障において役割を果たす可能性がある。オプチニューリンはアデノウイルス E3-14.7K タンパク質と相互作用し、腫瘍壊死因子 α または Fas リガンド経路を利用してアポトーシス、炎症、または血管収縮を誘導する可能性がある。また、オプチニューリンは、RAB8、ハンチンチン、および転写因子 IIIA タンパク質との相互作用を通じて、細胞形態形成、膜輸送、小胞輸送、および転写活性化にも機能する可能性がある。選択的スプライシングにより、同じタンパク質をコードする複数の転写バリエーションが生じる。[RefSeq 提供、2008 年 7 月]

研究分野

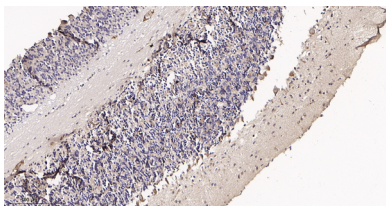
画像データ



HEK293 細胞のライセートのウェスタンブロット解析。オプティニューリンウサギ mAb を用いた。抗体の検出には HRP 標識ヤギ抗ウサギ IgG 抗体を用いた。



パラフィン包埋ヒト脳組織の免疫組織化学分析。1、オプティニューリンウサギモノクローナル抗体を 1:200 に希釈 (4°C、一晚)。2、EDTA pH 9.0 を使用して抗体を回復させた (>98°C、20 分)。3、二次抗体を 1:200 に希釈 (室温、30 分)。



パラフィン包埋マウス脳組織の免疫組織化学分析。1、オプティニューリンウサギモノクローナル抗体を 1:200 に希釈 (4°C、一晚)。2、EDTA pH 9.0 を使用して抗体を回復させた (>98°C、20 分)。3、二次抗体を 1:200 に希釈 (室温、30 分)。